

薬局での嚥下指導～薬剤師の介入による地域医療への貢献～

金田陽平、辻本佳亮

総合メディカルファーマシー中部(株) 豊田竜神店、ハロー薬局白川店

【目的】 私たちは、服薬指導において、患者が薬を飲めない状況にしばしば遭遇する。薬が飲めない原因は多岐にわたるが、高齢者の場合、老化による嚥下機能の低下により薬がうまく飲み込めないこともその原因のひとつとして考えられる。

そこで今回、嚥下機能に着目した服薬指導・アドバイスを行ったので、その取り組みについて報告する。

【方法】 当薬局を利用している75歳以上の患者に対し、質問表を用いた嚥下機能調査を実施。調査項目は①飲み込みが原因で、外食に行きづらくなった②食べる喜びが飲み込みによって減った③飲み込むときに、物がのどに引っかかるように感じる④食べるときに咳がでる⑤飲み込むことはストレスが多い⑥錠剤・カプセルが飲み込みづらい⑦粉薬が飲みづらい⑧飲み込むことが苦痛、の8つで①～⑦は4段階、⑧は11段階で回答を得た。回答結果で問題がひとつ以上ある患者に介入を行った。介入内容は摂食時の注意点、嚥下体操の指導など日常生活に関するものと、服薬方法のアドバイス・調剤方法の変更など服薬に関するものであった。また、次回来局時に再度嚥下機能調査を実施し、その変化を評価した。

【結果】 115名に調査を実施、嚥下機能に何らかの問題があると疑われた患者は43名であった。そのうち、薬剤師介入後、3ヶ月以内に来局があり再調査ができた患者は30名であった。初回調査で、飲み込み時に「せきが出る」「のどに引っかかる」と感じた患者は15名と14名で最も多かったが、薬剤師介入後はそれぞれ3名と6名に改善がみられた。また食事、服薬時全体を通じての「飲み込みの苦痛」を感じていた患者20名中8名に改善がみられた。

【考察】

今回の調査により、嚥下に何らかの問題があると感じている患者が多数いることが明らかになった。また、薬剤師の介入により、「飲み込み」に関する問題に一定の改善がみられた。今後も、薬が飲み込みづらいという患者に対して、服薬に関する指導・アドバイスとともに嚥下機能改善のための体操等の生活指導も継続していきたい。

【キーワード】 嚥下、摂食、服薬、嚥下体操、トレーニング